

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 7 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300659		
法人名	医療法人社団 明和会		
事業所名	グループホーム ラ・メール大野		
所在地	〒739-0452 廿日市市丸石二丁目3-35 (電話) 0829-50-4315		
自己評価作成日	令和3年 6月 18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300659-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年7月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ラ・メール大野は医療法人の運営する事業所です。母体の大野浦病院と連携を密に取っており、健康面でも安心して生活を送って頂ける環境にあります。四季を感じられるように花壇の手入れや季節毎の行事を行い、入居者様の夢を叶える事を目標に外食やドライブ等のレクを行っています。食事はメニューから職員で考え、心のこもった温かい食事を提供しています。入居者目線と考え、個別ケアを提供できるように職員の教育にも力を入れています。院内資格であるマスター制度があり（食支援マスター、認知症ケアマスター、接遇マスター）入居者様をはじめ、関わる人の幸せに貢献できるように専門性を発揮しています。職員も物心両面で豊かな生活を送れるように働き方を選択できる仕組みがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

食事は3食手作りで、入居者の希望を取り入れた献立となっており、食材の購入先も地元の商店や地産地消に取り組んでいる団体など安心安全にこだわっている。利用者の個別の生活歴や嗜好に趣味を活かしたケアに取り組むとともに、こまかな介護事故や課題についても記録し、分析を行い改善策に取り組んでいる。「利用者様の夢を叶える」こと18件を目標に令和3年度は取り組んでいる。職員の勤務について個別に事情や要望を確認しながら柔軟な対応をしている。たとえば夜勤専従や、休日勤務扱い、連続休暇など個別職員の希望を反映したり、副業を認めるなど働き方の見直しを進めている。また、法人内の資格制度を活用し、食の分野や、認知症の対応、接遇に関する能力の育成を図るマスター制度がある。年に2度の目標管理面接を通じた人事考課がなされ報酬と連動しており人事制度が構築されている。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人理念、グループホーム理念を元に部署目標を立案し、各職員の目標管理面談にて部署目標、個人目標、目標に対しての進捗状況を確認し評価に繋げている。	グループホームの理念を玄関に掲示し、「個々の思いの尊重」と「地域とのかかわり」「安心の生活」について、各職員の目標管理にて具体化し実践、半年に一度進捗確認を行っている。午後2時からの昼礼で課題を検討するにあたり3つの視点を大切にしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響を受け、地域の行事は中止になった物が多い。感染に十分に注意して地域清掃活動への参加や区の組長、役員会へ出席している。	自治組織の組長として管理者が地域活動に参加している。「ふれあいミニサロン」には、職員や利用者が、地区の清掃活動は年に2回、法人職員も参加している。地域行事のとんどや運動会への参加、納涼祭やクリスマス会、朗読会でのボランティアの来訪は感染症の影響で中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の院内資格である認知症ケアマスター（ホームでは4人が資格取得）が中心となり認知症カフェや勉強会を立案しているが、コロナ禍で中止となっている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍の影響で現在は中止となっている。開催時にはホーム内のインシデントや行事の報告、より良いホームを目指す為の意見を頂きホーム運営に活かしている。	コロナ禍で再開はされていないが、廿日市市、地域包括支援センター、介護相談員、有識者、利用者家族、民生委員の参加があり、事故や課題の報告やアドバイスを受れたり、地域行事への参加の機会となっている。利用者の麻雀参加に繋がったこともある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いている廿日市市大野支所高齢介護課の担当者に相談があれば相談し助言を頂いている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議もコロナ禍の影響で中止となっており、今後ワクチン接種等の対策終了後は積極的に参加したい。	介護相談員・まちづくり協議会に参加し、事業所で介護相談を開催したり、市と協力しあいながら取り組みが行われている。社会福祉協議会や業界関係者が開催する研修会にも参加している。地域包括支援センターの開催するケア会議や研修会は中止となっている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に対しての研修を実施しており、行動面ではマニュアルを作成し身体拘束への理解を深めケアに取り組んでいる。	法人の安全衛生委員会の開催する研修やホームでの虐待防止の研修、入職時研修を通じて身体拘束に係る研修を行っている。身体拘束の11事例ではないが、防犯のための施錠やセンサーの扱いについて、抑制の観点、個々の尊厳の観点、安全性の観点、身体拘束3要件の観点から再検討の意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を実施しており、職員1人1人が理解を深め適切に行動できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者様の中には成年後見制度や社会福祉協議会のかけはしを利用しておられる方があり、入居者様を取り巻く環境や制度に関して理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ずホームの見学をして頂き雰囲気やサービス内容をお伝えした上で契約を締結している。契約時には十分な説明を行い同意頂ければ署名、捺印をお願いしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年8月と12月に家族のみで要望等を話し合って頂く家族会を開催している。昨年度はコロナ禍の影響があり実施できなかったが、随時、意見や要望がある時には柔軟に対応している。	納涼祭やクリスマス会と合わせて家族会を開催し、家族の意向をうかがう機会としてきた。現在、面会はキーパーソンだけ短時間でやっている。来所時にはできるだけ意見や要望を聞くようにしている。刺身やケーキなどの食べ物の希望を叶えたり、外出の機会につながったことがある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットリーダーが相談役となり意見や提案があれば検討、話し合う機会を設けている。	ユニットリーダーが職員の意見を聞くようにしている。職員はいずれのユニットのリーダーに相談してもよく、昼礼時に検討がされ、連絡帳で職員へ伝達がされている。2日を通しての入浴を担当することに負担感が寄せられる一方で、負担感はあまりなく効率的との意見があり、検討中である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度や働き方を選べる仕組みが法人にあり、やりがいやライフスタイルに合わせた働き方が出来るような仕組みがある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で各職員のレベルに合わせたリーダー研修制度がある。また目標管理面接を行い各職員への期待値を伝える事や目標に対しての振り返りを実施している。また、法人外の研修への参加案内が社内掲示板を通じて掲示され多数の参加実績がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年であれば福祉施設職員相互研修に参加していたが、コロナ禍の影響で実施する事ができていない。この状況下で開催された認知症介護実践者研修等は同業他社の職員との意見交換の良い場となっていた。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に生活歴や趣味等の確認を行っている。入居後は特に不安も大きいと予想される為、しばらくは職員から不安を軽減できるようなキーワードを用いて声かけを実施している。また、話しをする中で得た情報を職員で共有して安心して過ごせるように気持ちや環境面で活かせるように務めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりを努めている。	サービス開始時の暫定計画書(2週間の期限)を作成する時点で家族の希望や意向を確認している。また、何かあればこまめに電話連絡を行っており、請求書送付時に一口メッセージと一緒に様子が分かり易いように写真を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時での聞き取りをはじめ、ケアカンファレンス前の希望確認や、その時に応じたサービスの提案等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常日頃から入居様と職員は対等な関係である事を職員間で周知している。入居者様の生活で難しい箇所を一部支援する事と職員の成長やスキルアップの喜びを感じる事はもとより、お互いが認め合い共感して生活を営めるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切なご家族を預かっている一方で、入居者様により良い生活を送って頂く為のヒントをご家族から頂いている。コロナ禍で面会に制限がかかっている昨今ではラインでのオンライン面会等を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ラインを使用したオンライン面会はキーパーソンのご家族のみならず誰でも登録頂ければ使用できる仕組みとなっている。	面会や遠出がむずかしい時期なので、職員が馴染みの人の話題や、場所について積極的に話しかけるようにしている。グーグルマップを使った訪問や、ご家族から映像や写真を貰った利用者もいる。ラインで画像と音で繋がるような支援をしている。年賀状を書く支援を次年度は試みる意向である。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様、それぞれの認知症のタイプを熟知しており、その時々での感情が本物である事を職員全員が理解して居間で過ごされる時の席や個人別の過ごし方等の配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後であってもご家族より相談事があれば可能な限り相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを法人の理念として掲げている。特に今年はICFを活用した取り組みを開始した。本人本位の生活を営めるようにライフスタイルを尊重している。	個別に聞いた思いや意向をケース記録に入力して職員で共有してケアに活かしている。声掛けによる返事や表情から意向をくみ取り代弁している。パーマにしたいと美容につながったことや、たべたい食事やおやつにつながったこと、外食につながったこと、外出につながったことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りでこれまでの生活歴等や既往歴を把握できるように努めている。入居時は自宅で使い慣れた物品を持参して頂き安心して生活を送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康状態やご本人の出来る事や得意な事を観察して記録に残す事を情報共有の材料としている。特に法人看護部長回診を行い病状についての把握や観察ポイントの周知を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	担当者がご本人やご家族の意向の聴取及び心身状態（受診歴や様子等）をモニタリングしアセスメントを作成する仕組みとなっている。計画作成担当者はその時々に合わせて計画書を作成している。	利用者ごとに担当職員を決めており、日常の変化を把握するとともに、半年に一度のモニタリングにて、家族への報告と合わせて意向を伺い、他の介護職員や看護職員の意見を踏まえて計画作成担当者が計画の取りまとめを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	特に気に掛けるべき記録については職員連絡ノートを活用して記録の情報共有を行っている。個人記録を基に介護計画に繋がるアセスメントを作成する仕組みとなっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療法人の特性を十分に活かしたサービス提供を行っている。リハビリ部門や看護部門との連携はもとより系列会社の福祉用具事業所とも連携を行い多職種連携を図り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の特性としてサロン活動やボランティア活動が盛んである。しかし、コロナ禍の影響で毎回参加していたサロンにも参加できず、廿日市市の介護相談員も現在は休止している。しかし、玄関の絵画は地域の方が定期的に新作を届けて下さっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医はご家族、ご本人の意向を十分に伺い決定している。併設の大野浦病院を希望された場合も既往歴に併せて担当医を決める仕組みがある。必要時や希望時はご家族にも受診に付き添って頂いている。	家族の通院支援にて、かかりつけ医の継続はできるが、ほとんどの方が併設の病院をかかりつけ医としている。特別な医療が必要な場合は、紹介をし家族等の協力を経て専門医の受診を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師1名、非常勤看護師2名の体制を取っているが母体の大野浦病院や、さくらす大野の看護師とも連携を取る仕組みがあり適切な対応を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には先方の地域連携室との連絡をとり、状態の確認や帰所に向けた支援で必要な事を確認している。必要に応じて退院前カンファレンスにも参加している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の希望を書面で確認しており、希望が変わった場合は申し出て頂くようにしている。終末期には出来る事も限られている旨を説明し、もしもの場合の方向性を確認している。	利用開始時に重度化した場合の事業所の方針について説明するとともに、重度化した場合の医療について「依頼書」にて確認をしている。併設の病院にて亡くなる方、希望される方がほとんどである。今後、ホームとして医療の希望について段階ごとに都度確認していく意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に対応できるように事故発生時のマニュアルを作成し共有している。また、急変時や事故発生時には法人内の医療職がフォローする仕組みがある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対応のマニュアルを作成しており、年に2回の防災訓練を実施している。法人で部署毎にアクションカードを作成しており避難に関する方法、手順を共有している。また、ホーム管理者が地域の組長になっており災害時における地域との連携についても確認をしている。	年に2回の災害訓練を実施している。災害の内容は予告されておらず実践的な訓練である。アクションカードに基づき、職位職種ごとに対応できるよう訓練している。地域の防災訓練や過去の土砂災害の学習会にも参加している。食料の備蓄・自家発電の設備は併設の医療機関とともに整備している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した取り組みとして、接遇改善に取り組んでいる。今年度は法人内資格である接遇マスターの活動と法人主任会が共同で接遇改善に向けた取り組みを行うようになっている。	利用者の尊厳を大事にした言葉使いについて接遇訓練の研修を実施するとともに、職員が指摘しあうことに取り組んでいる。入浴や排せつ時における声掛けの配慮や羞恥心への配慮を行っている。個人情報保護方針を玄関に掲示し、利用者の記録については施錠書庫で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアの中で自己決定できる機会を意識したケアに取り組んでいる。例えば意思決定の難しい入居者様に対しても、着替えの時は複数の選択肢を提示して選んで頂くような工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や体操時間など、なるべく規則正しい生活を送れるように声掛け等を行い支援しているが、本人の気分等も考慮して入居者様の個々のペースに合わせて無理強いする事の無いように過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を大切に、その日の気分で服を選んだり化粧できるように支援している。また、散髪は行きつけの場所があればご家族の協力のもと好きな美容院を利用して頂き、希望者は外部業者による訪問散髪サービスを利用している。希望に応じてカラーやパーマもしてもらえる環境にある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	院内資格の食支援マスターが中心となり安全かつ個人の嗜好に合わせた食べる楽しみを支援している。また、野菜の下ごしらえやお盆拭き等はなるべく入居者様が行えるように支援している。	3食手作りで利用者の希望や嗜好を取り入れた献立となっている。梅干し、おかゆ、おにぎりなど、個別の希望や嗜好に対応をしている。野菜の皮むきやお盆を拭いてもらうなど、できることをしてもらっている。誕生日には献立の希望を聞いたり、季節の行事食などで楽しんでもらっている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養バランスを考えメニュー作成を実施している。栄養補給に関しては、定期受診に食事摂取量や体重等の報告を行い、特に気になる方に関しては主治医とも相談し栄養補助食品等を提供している。水分補給については嗜好に合わせた物の提供とお茶ゼリーの提供等工夫をして摂取量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	院内資格である食支援マスターが中心となり1人1人に口腔ケアアセスメントを実施しており定期的にケアの仕方の確認をしている。また、口腔内のトラブルに関しては同法人の歯科衛生士と相談し必要に応じて歯科医に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の失敗を極力防げるように各入居者様の排泄パターンを、ほのぼののシステムを活用し職員間で共有している。また、各個人の排泄パターンからトイレ誘導や声かけのタイミングを考えて援助している。	排泄を記録するシステムを活用して、排泄パターンを職員間で共有し、声掛けを行っている。日中は全員トイレにて排泄をし、夜間はパッドの活用やポータブルトイレの活用をされる方もいる。リハビリパンツからパッドへの移行例もある。トイレでの座位と姿勢に留意し排泄の支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分補給や乳製品の摂取をはじめ適度な運動機会を確保できるように午前、午後で体操する機械を設け、運動量の少ない方には個別で運動機会を確保できるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	無理強いすることなく、ご本人のタイミングで入浴に誘うようにしている。概ね2日に1度の入浴機会を確保できるように援助を行っており、希望があれば同性の職員で対応するようにしている。	家庭用の浴槽にて入浴しており、ほとんどの方が浴槽まで入っている。午前・午後が入浴時間の基本であるが、夜間の入浴を行ったこともある。拒否のある方は、気分やタイミングを計ったり、職員との相性も考慮するなどの工夫を行っている。ゆず湯に入ってもらったこともある。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日課や体調に合わせて休息時間 を確保できるように柔軟に支援し ている。夜間等に不安を訴える方 がいる時は話しの傾聴を行う等 の安心できるような支援を実施 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬確認を正確に実施できるよ うにチェック表を作成して活用し ている。また、薬の調整をされて いる方には、確認すべきポイント について主治医に確認を行い、 様子観察した記録を元に連携を 取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事援助や趣味活動で、入居者 様が得意な事を見つけ日課に取 り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出かけ られるように支援している。	コロナ禍の影響を受けて外出支 援は難しい状況。令和2年度は 入居者様の夢を叶えるを目標に 行きたい場所等の聞き取りまで 行えたが、外出までには至ら ず。本年度はコロナ禍でも出来 る対応を考えて行く。	近隣の散歩や車いす介助で行け る範囲の花見など、施設周辺の 外出となっている。隣接の法人 が経営するサービス付き住宅で 飼われている犬を見に行くこと が楽しみとなっている利用者も いる。家族の介助により、日帰 りでの法事、葬儀の外泊など、 感染予防の対策を講じることを 条件に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金の 所持したり使えるように支援し ている。	基本的にはご家族様の了承のもと 、入居者様の責任で現金を所持 して頂いている。社協のかけはし を利用している方もおられ、必 要に応じて連携を行いながら支 援している。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>特にコロナ禍の影響もありラインを使用してオンライン面会を実施している。また、ご家族からの手紙は本人に確認をして一緒に読んだり大切に保管できるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の居間部分は季節を感じて頂けるように季節の飾り付けを行っている。玄関前のプランターは季節毎に花の植え替えを行っている。ご自分の好きな場所でくつろげるように支援している。</p>	<p>共用空間は十分な広さがあり、居間には季節を感じさせる七夕の飾りがある。秋には栗や紅葉などを配し、季節を感じられるよう工夫している。玄関ロビーも広く、利用者の談笑の場となっている。台所と居間がつながっており、調理の音や臭いを感じられるようにしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>玄関部分は朝日が差し込むので、入居者様が気の合う方と気持ち良く過ごせるようにソファを配置している。決して無理強いする事のないように思い思いの場所で過ごせるように支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前にご家族と相談を行い、居室内は好きなように使用して頂き安心できる環境を作る為、写真や使い慣れた物品を持参して頂いている。</p>	<p>使い慣れたものの持ち込みを働きかけ、イスやテーブル、鏡台、筆筒、仏壇、テレビ、ラジオ、加湿器などが持ち込まれ、配置は落ち着けるように利用者と家族で相談している。家族の写真や小物を持ち込まれる方が多く、茶碗、マグカップなど食器と衣服については、必ず持参いただいている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレの表示や居室の表札等、視覚で分かり易いように工夫している。また安全に生活を送れるように廊下にも休憩できる椅子を配置している。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	法人理念、グループホーム理念を元に部署目標を立案し、各職員の目標管理面談にて部署目標、個人目標、目標に対しての進捗状況を確認し評価に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響を受け、地域の行事は中止になった物が多い。感染に十分に注意して地域清掃活動への参加や区の組長、役員会へ出席している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人の院内資格である認知症ケアマスター（ホームでは4人が資格取得）が中心となり認知症カフェや勉強会を立案しているが、コロナ禍で中止となっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍の影響で現在は中止となっている。開催時にはホーム内のインシデントや行事の報告、より良いホームを目指す為の意見を頂きホーム運営に活かしている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に出席して頂いている廿日市市大野支所高齢介護課の山下さんに相談があれば相談し助言を頂いている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議もコロナ禍の影響で中止となっており、今後ワクチン接種等の対策終了後は積極的に参加したい		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止に対しての研修を実施しており、行動面ではマニュアルを作成し身体拘束への理解を深めケアに取り組んでいる		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を実施しており、職員1人1人が理解を深め適切に行動できるように取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在の入居者様の中には成年後見制度や社会福祉協議会のかけはしを利用しておられる方があり、入居者様を取り巻く環境や制度に関して理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居前には必ずホームの見学をして頂き雰囲気やサービス内容をお伝えした上で契約を締結している。契約時には十分な説明を行い同意頂ければ署名、捺印をお願いしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年8月と12月に家族のみで要望等を話し合ってもらって家族会を開催している。昨年度はコロナ禍の影響があり実施できなかったが、随時、意見や要望がある時には柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットリーダーが相談役となり意見や提案があれば検討、話し合う機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度や働き方を選べる仕組みが法人にあり、やりがいやライフスタイルに合わせた働き方が出来るような仕組みがある		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で各職員のレベルに合わせたリーダー研修制度がある。また目標管理面接を行い各職員への期待値を伝える事や目標に対しての振り返りを実施している。また、法人外の研修への参加案内が社内掲示板を通じて掲示され多数の参加実績がある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	例年であれば福祉施設職員相互研修に参加していたが、コロナ禍の影響で実施する事ができていない。この状況下で開催された認知症介護実践者研修等は同業他社の職員との意見交換の良い場となっていた		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に生活歴や趣味等の確認を行っている。入居後は特に不安も大きいと予想される為、しばらくは職員から不安を軽減できるようなキーワードを用いて声かけを実施している。また、話しをする中で得た情報を職員で共有して安心して過ごせるように気持ちや環境面で活かせるように務めている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。	サービス開始時の暫定計画書(2週間の期限)を作成する時点で家族の希望や意向を確認している。また、何かあればこまめに電話連絡を行っており、請求書送付時に一口メッセージと一緒に様子が分かり易いように写真を添えて送付している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時での聞き取りをはじめ、ケアカンファレンス前の希望確認や、その時に応じたサービスの提案等を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常日頃から入居様と職員は対等な関係である事を職員間で周知している。入居者様の生活で難しい箇所を一部支援する事と職員の成長やスキルアップの喜びを感じる事はもとより、お互いが認め合い共感して生活を営めるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	大切なご家族を預かっている一方で、入居者様により良い生活を送って頂く為のヒントをご家族から頂いている。コロナ禍で面会に制限がかかっている昨今ではラインでのオンライン面会等を行っている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ラインを使用したオンライン面会はキーパーソンのご家族のみならず誰でも登録頂ければ使用できる仕組みとなっている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様、それぞれの認知症のタイプを熟知しており、その時々での感情が本物である事を職員全員が理解して居間で過ごされる時の席や個人別の過ごし方等の配慮を行っている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後であってもご家族より相談事があれば可能な限り相談に応じている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別ケアを法人の理念として掲げている。特に今年はICFを活用した取り組みを開始した。本人本位の生活を営めるようにライフスタイルを尊重している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の聞き取りでこれまでの生活歴等や既往歴を把握できるように努めている。入居時は自宅で使い慣れた物品を持参して頂き安心して生活を送れるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	健康状態やご本人の出来る事や得意な事を観察して記録に残す事を情報共有の材料としている。特に法人看護部長回診を行い病状についての把握や観察ポイントの周知を行っている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者がご本人やご家族の意向の聴取及び心身状態（受診歴や様子等）をモニタリングしアセスメントを作成する仕組みとなっている。計画作成担当者はその時々に合わせて計画書を作成している</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>特に気に掛けるべき記録については職員連絡ノートを活用して記録の情報共有を行っている。個人記録を基に介護計画に繋がるアセスメントを作成する仕組みとなっている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>医療法人の特性を十分に活かしたサービス提供を行っている。リハビリ部門や看護部門との連携はもとより系列会社の福祉用具事業所とも連携を行い多職種連携を図り柔軟な支援に取り組んでいる</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の特性としてサロン活動やボランティア活動が盛んである。しかし、コロナ禍の影響で毎回参加していたサロンにも参加できず。廿日市市の介護相談員も現在は休止している。しかし、玄関の絵画は地域の方が定期的に新作を届けて下さっている</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医はご家族、ご本人の意向を十分に伺い決定している。併設の大野浦病院を希望された場合も既往歴に併せて担当医を決める仕組みがある。必要時や希望時はご家族にも受診に付き添って頂いている</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常勤看護師1名、非常勤看護師2名の体制を取っているが母体の大野浦病院や、さくらす大野の看護師とも連携を取る仕組みがあり適切な対応を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には先方の地域連携室との連絡をとり、状態の確認や帰所に向けた支援で必要な事を確認している。必要に応じて退院前カンファレンスにも参加している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の希望を書面で確認しており、希望が変わった場合は申し出て頂くようにしている。終末期には出来る事も限られている旨を説明し、もしもの場合の方向性を確認している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時に対応できるように事故発生時のマニュアルを作成し共有している。また、急変時や事故発生時には法人内の医療職がフォローする仕組みがある		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害対応のマニュアルを作成しており、年に2回の防災訓練を実施している。法人で部署毎に作成しており避難に関する方法、手順を共有している。また、ホーム管理者が地域の組長になっており災害時における地域との連携についても確認をしている		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重した取り組みとして、接遇改善に取り組んでいる。今年度は法人内資格である接遇マスターの活動と法人主任会が共同で接遇改善に向けた取り組みを行うようになっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々のケアの中で自己決定できる機会を意識したケアに取り組んでいる。例えば意思決定の難しい入居者様に対しても、着替えの時は複数の選択肢を提示して選んで頂くような工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事時間や体操時間など、なるべく規則正しい生活を送れるように声掛け等を行い支援しているが、本人の気分等も考慮して入居者様の個々のペースに合わせて無理強いする事の無いように過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の意思を大切に、その日の気分で服を選んだり化粧できるように支援している。また、散髪は行きつけの場所があればご家族の協力のもと好きな美容院を利用して頂き、希望者は外部業者による訪問散髪サービスを利用している。希望に応じてカラーやパーマもしてもらえる環境にある		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	院内資格の食支援マスターが中心となり安全かつ個人の嗜好に合わせた食べる楽しみを支援している。また、野菜の下ごしらえやお盆拭き等はなるべく入居者様が行えるように支援している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養バランスを考えメニュー作成を実施している。栄養補給に関しては、定期受診に食事摂取量や体重等の報告を行い、特に気になる方に関しては主治医とも相談し栄養補助食品等を提供している。水分補給については嗜好に合わせた物の提供とお茶ゼリーの提供等工夫をして摂取量を確保している</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>院内資格である食支援マスターが中心となり1人1人に口腔ケアアセスメントを実施しており定期的にケアの仕方の確認をしている。また、口腔内のトラブルに関しては同法人の歯科衛生士と相談し必要に応じて歯科医に繋げている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の失敗を極力防げるように各入居者様の排泄パターンを、ほのぼののシステムを活用し職員間で共有している。また、各個人の排泄パターンからトイレ誘導や声かけのタイミングを考えて援助している</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分補給や乳製品の摂取をはじめ適度な運動機会を確保できるように午前、午後で体操する機械を設け、運動量の少ない方には個別で運動機会を確保できるように支援している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>無理強いすることなく、ご本人のタイミングで入浴に誘うようにしている。概ね2日に1度の入浴機会を確保できるように援助を行っており、希望があれば同性の職員で対応するよにしている</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日課や体調に合わせて休息時間 を確保できるように柔軟に支援し ている。夜間等に不安を訴える方 がいる時は話しの傾聴を行う等 の安心できるような支援を実施 している		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬確認を正確に実施できるよ うにチェック表を作成して活用 している。また、薬の調整をさ れている方には、確認すべきポ イントについて主治医に確認を 行い、様子観察した記録を元に 連携を取っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事援助や趣味活動で、入居 者様が得意な事を見つけ日課に 取り入れている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	コロナ禍の影響を受けて外出 支援は難しい状況。令和2年度 は入居者様の夢を叶えるを目標 に行きたい場所等の聞き取り まで行えたが、外出までには 至らず。本年度はコロナ禍でも 出来る対応を考えて行く		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように 支援している。	基本的にはご家族様の了承の もと、入居者様の責任で現金を 所持して頂いている。社協のか けはしを利用している方もお られ、必要に応じて連携を行 いながら支援している		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>特にコロナ禍の影響もありラインを使用してオンライン面会を実施している。また、ご家族からの手紙は本人に確認をして一緒に読んだり大切に保管できるように支援している</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の居間部分は季節を感じて頂けるように季節の飾り付けを行っている。玄関前のプランターは季節毎に花の植え替えを行っている。ご自分の好きな場所でくつろげるように支援している</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>玄関部分は朝日が差し込むので、入居者様が気の合う方と気持ち良く過ごせるようにソファを配置している。決して無理強いする事のないように思い思いの場所で過ごせるように支援している</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前にご家族と相談を行い、居室内は好きなように使用して頂き安心できる環境を作る為、写真や使い慣れた物品を持参して頂いている</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレの表示や居室の表札等、視覚で分かり易いように工夫している。また安全に生活を送れるように廊下にも休憩できる椅子を配置している</p>		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ラ・メール大野

作成日 令和3年 8月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19	入居者さんの生活している様子等がご家族に伝わりにくい。	現在、面会制限等があるのでオンラインで面会の件数を増やす。 (現在 1ヶ月平均 3件。倍増を目指す) 現在登録件数：9家族で13件	オンライン面会登録者数増に向けて、請求書に同封している一口メッセージに登録の案内を添える。	R3年9月度 郵送分から
2	26	ご家族から見て、ご本人の満足度が分かり難い。	ご本人の満足、不満足が、ご家族に伝わるようにする。	ケアプランの更新時に前回プランの評価・様子を正しくご家族に伝える。	R4年2月末
3	19	コロナ禍の対応とは別に、ご家族に気軽に訪ねられる雰囲気を作りたい。	ご家族から見て、気軽に話しかけられるような雰囲気を作る。	接遇面の見直し、法人内の接遇ラウンドにて接遇面での弱い箇所を分析し改善する。	ラウンド： R3. 8. 10～ 9. 10、R4年1月 実施 分析： R3年10月、令和4年2月 啓 発：令和3年10月、令和4年2月
4					
5					
6					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。